

2022年度 年 報

U

C

R

E

山梨県立大学地域研究交流センター

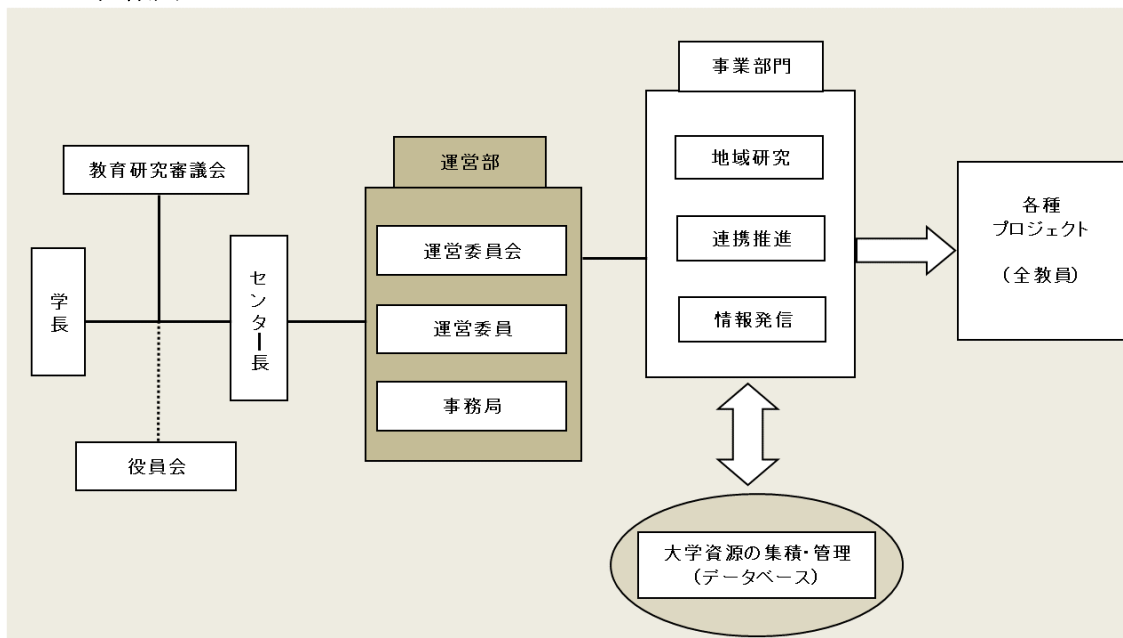
目 次

I. 組織図・委員名簿	P2
II. 地域研究部門	P3-4
1. 部門事業の概要	
2. 部門事業の実績	
III. 連携推進部門	P5-12
1. 部門事業の概要	
2. 部門事業の実績	
IV. 情報発信部門	P12
1. 部門事業の概要	
2. 部門事業の実績	
V. 受託事業	P12-17
(1) 子育て支援員認定研修会（山梨県委託事業）	
(2) やまなし市民後見人養成基礎講座（山梨県委託事業）	
(3) 富士河口湖町観光 PR 事業（富士河口湖町委託事業）	
(4) 日本で生活する外国人のための「日本語・日本文化講座」（甲府市委託事業）	

I . 組織図 .

委員名簿

1. 組織図



2. 委員名簿 (地域研究交流センター運営委員)

学部	学科	氏名	部門
国際政策学部	総合政策学科	安達 義通	センター長
		伊藤 智基	情報発信部門長
	国際コミュニケーション学科	張 兵	連携推進部門
		杉山 歩	地域研究部門
人間福祉学部	福祉コミュニティ学科	青柳 暁子	連携推進部門長
		高木 寛之	地域研究部門長
	人間形成学科	里見 達也	情報発信部門
看護学部	看護学科	西村 明子	地域研究部門
		大倉 美佳	情報発信部門
		大久保 ひろ美	連携推進部門
		横内 理乃	連携推進部門

Ⅱ．地域研究部門

1. 部門事業の概要

地域研究部門では、本学の教員等が持つ「知的資源」を地域社会の課題解決や地域活性化等に活かすことを目的として、本学の教員が中心となって行う地域研究・地域貢献事業に対して支援を行っている。

地域研究事業は、地域課題解決などの地域に貢献する研究であり、特にセンターが重点的に取り組む必要があると認め、複数学部の教員が参加する研究と重点テーマ研究という。地域実践事業は、大学の知的なノウハウを活用しつつ、地域貢献を目的とする実践活動をいう。本部門では、3学部・研究科の教員が共同で取り組む研究や地域の諸団体と連携して取り組む研究を推奨している。

本部門は、このような教員の地域研究・地域貢献事業の実施のために、企画、募集、選考、予算決定、研究進捗管理、報告書作成、研究成果報告、評価などに関わった。

2. 部門事業の実績

2022年度は、地域研究事業の重点テーマ研究は申請1本、2本採択（1本は継続）、地域研究は申請6本、4本採択、地域実践事業は5本申請、3本採択となった。

(1) 重点テーマ研究

① 多様性ある社会的連携・協働の構築に関する研究（継続）

【研究目的】

- 教育・医療・地域福祉の3領域における市民活動の状況を多文化共生の観点から把握し、多分野の研究者間で共有し、その構造を明らかにする。
- 地域において外国籍住民と日本国籍住民の協働の場を試し、実践上の課題を明らかにする。
- 行政や民間において実施すべき実効性ある対策を立案し提言する。

【研究代表者】

長坂香織（看護学部）

【研究メンバー】

伊藤智基、徐正根（国際政策学部）

大塚ゆかり、鳥居美佳子（人間福祉学部）

飯嶋玲奈、阿部美穂子、井川由貴、宗村弥生（看護学部）

② 過疎地域における持続可能な地域社会の形成に関する研究（新規）

—山梨県身延町をフィールドとしてSDGsの観点から—

【研究目的】

- 山梨県の典型的な過疎化地域である峡南地域、特に身延町を、環境・人口・社会・経済・福祉などに関する各種の統計データなどを駆使して、その地域診断を行い、現状における持続可能性がどのようになっているのか、その分析を行い、研究者間での共通の認識を形成する。
- これらの共通認識に立ち、研究者それぞれがその専門性を活かして、分野を絞りより深い考察を重ね、実践上の課題を明らかにする。
- 県内外の先行事例の調査を行い、身延町との比較を行う。
- これらに研究に基づいて、行政や民間において持続可能な地域社会を形成するために実施すべき実効性ある対策を立案し提言する。

【研究代表者】

安達義通（国際政策学部）

【研究メンバー】

箕浦一哉、安藤勝洋、杉山歩（国際政策学部）

高木寛之（人間福祉学部）

須田由紀、金井美希（看護学部）

(2) 地域研究

- ① 誰もが迎える高齢期の生活と介護への備え
ー高齢期の不安に向き合う地域支援活動ー
【研究代表者】
中島朱美 (人間福祉学部)
- ② 市民活動組織におけるコロナ禍と平時の活動内容比較
ー民生委員と福祉推進員に焦点を当ててー
【研究代表者】
青柳暁子 (人間福祉学部)
- ③ 山梨県における市町村 DX 計画の重点内容と人材確保手段に関するアンケート調査
ーDX 化の推進がもたらす行政需要及び職員数の変化の可視化ー
【研究代表者】
申龍徹 (国際政策学部)
- ④ 山梨県におけるがん検診受診行動の要因 受診しない要因と受診行動変容のプロセス
【研究代表者】
前澤美代子 (看護学部)

(3) 地域実践

- ① 手でみる展覧会 2022 ー感染症蔓延に留意した触覚を使った美術作品鑑賞の実践ー
【研究代表者】
古屋祥子 (人間福祉学部)
- ② やまなし多言語高校進学ガイダンスーキャリアプランを考える拠点づくり元年ー
【研究代表者】
萩原孝恵 (国際政策学部)
- ③ 山梨県峡南地域の河川環境ガバナンスに向けたワークショップの開催
【研究代表者】
箕浦一哉 (国際政策学部)

(4) 報告会「2022 年度地域研究交流センター ～研究・実践プロジェクトの成果発表～」

【日 時】2023 年 3 月 24 日 (金) 11:30～15:30

【会 場】山梨県立大学飯田キャンパス C 館 1 階 101 教室 対面・オンライン開催

【参加者】本学教員、学生、地域住民、評価委員 約 60 名

【内 容】2022 年度実施した 9 本の地域研究・地域貢献事業の成果報告

(5) 課題

研究活動における倫理審査の必要性について、研究分野において差がみられる。特に、看護学部や人間福祉学部の研究領域では、学内の研究倫理審査が必須となってきている現状もある。そのため、複数学部の教員で構成される研究における研究倫理審査の手続きの構築が課題となる。

地域貢献に関わる地域実践については、申請段階で地域関係者との事業の調整を図っていることもあり、不採択となった場合に、地域関係者との信頼関係が崩れることも考える。そのため、審査段階において、状況を確認することが求められる。

Ⅲ . 連 携 推 進 部 門

1. 部門事業の概要

- (1) SDG s フォーラムの企画・運営
- (2) 学生地域貢献活動支援事業の管理・運営
- (3) 学部共催事業
- (4) 高大連携

2. 部門事業の実績

- (1) SDG s フォーラム
 - ①第3回 SDGs フォーラム×令和4年度やまなし消費者志向経営セミナー

山梨県立大学 地域研究交流センター × 山梨県
 第3回 SDGs フォーラム × 令和4年度 やまなし消費者志向経営セミナー

サステナブルチャレンジ in Yamanashi

県内事業者の取り組み事例から自分たちができることを考えよう

2022年 9月7日(水) 13:30~15:30 受付開始 13:00~
 山梨県立大学 飯田キャンパスA館6階 サテライト教室
 住所:山梨県甲府市飯田5-11-1

オンライン配信 | 会場聴講30名 | 申し込み締切 9月5日(月) | 参加費 無料

新型コロナウイルス感染拡大により、オンラインのみの開催になる場合があります。

パネルディスカッション

「やまなし×サステナビリティ～地域のチャレンジ2～」

各社の取り組み事例をじっくり聴いていきます

コーディネーター
 一般社団法人エシカル協会 理事
 株式会社オウルズコンサルティンググループ プリンシパル
大久保 明日奈氏

パネリスト
 深沢 栄治氏 (株式会社光・彩 代表取締役社長CEO)
 有賀 翔氏 (勝沼醸造株式会社 製造部 製造部長)
 前田 市郎氏 (株式会社前田源商店 代表取締役)
 中村 光良氏 (サントリープロダクツ株式会社 天然水白州工場企画部長)

一般社団法人エシカル協会 理事
 株式会社オウルズコンサルティンググループ プリンシパル
大久保 明日奈氏
 金融機関、ITアドバイザリーファーム、
 デロイトトーマツコンサルティング
 合同会社を経て、エシカル協会にはコ
 ンサルタントとして関与した後、2020
 年9月に理事就任。現在在籍しているオ
 ウルズコンサルティンググループで
 は、ビジネス戦略、サステナビリティ戦
 略をテーマとするプロジェクトに従
 事。慶應義塾大学経済学部卒業。

申し込み方法
 ①か、②の
 方法で

① 申し込みフォームより
 お申し込みください。
<https://forms.gle/1R64WEXnFAcclP8n6>

② FAXで055-225-1150にお申し込みください。
 名前、所属(事業者名)、住所、電話番号、メール
 アドレス、職業、年代、参加形式(対面かオンライン)
 を記載。その他質問があればご記入ください。

山梨県立大学 地域研究交流センター事務局 (社会連携課)
 TEL 055-225-5412 FAX 055-225-1150
 E-mail ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp

山梨県県民生活センター
 TEL 055-223-1571 FAX 055-223-1368
 E-mail kenminskt-c@pref.yamanashi.lg.jp

主催:山梨県立大学 地域研究交流センター、山梨県県民生活センター

- ②第4回 SDGs フォーラム

空き家対策シンポジウム

～「大学や学生に何が出来るか」「地域住民の視点から考える空き家対策」について考えま
 す！～

2月13日(月) 山梨県立大学飯田キャンパスB館1階講堂 13:00~15:00

プログラム： 13：00～14：00 各シンポジストの取り組みについて

14：00～15：00 ディスカッション

シンポジスト： 相吉泰夫（穴切地区自治会連合会長）

後藤貴仁（国連支援財団、山梨県人会十士会空き家対策部会長）

大原勝一（株式会社SHOEI 代表取締役）

渡邊裕子（山梨県立大学看護学部教授・理事）

コーディネーター：青柳暁子（山梨県立大学人間福祉学部准教授）

参加者：オンライン12人、会場聴講40人

相吉氏からは穴切地区の空き家の実情、後藤氏からは山梨の空き家の現状、大原氏からは空き家や空き地の利用について、渡邊教授からは山梨県立大学の学生と行っている取り組みについて発表があった。

シンポジウム後のアンケートには41名の回答があり、おおむね「良い」という評価であったが、「時間設定を考えてほしい」「クロストークの時間が欲しかった」などの意見があり、今後検討する必要がある。

山梨県立大学 地域研究交流センター
第4回 SDGs フォーラム
空き家対策シンポジウム
～「大学や学生に何ができるか」～
「地域住民の視点から考える空き家対策」について考えます！～

2023年 2月13日(月) 13:00～15:00 受付 12:30～
山梨県立大学 飯田キャンパスB館1階 講堂

会場定員 100名 申込締切 2月9日(木) **参加費 無料**

※オンライン配信あり ※新型コロナウイルス感染症拡大により、オンラインのみの開催になる場合があります

プログラム 13:00～14:00 各シンポジストの取り組みについて | 14:40～15:00 質疑応答
14:00～14:40 ディスカッション

シンポジスト コーディネーター
相吉 泰夫 (穴切地区自治会連合会長) 青柳 暁子 (山梨県立大学人間福祉学部 准教授)
後藤 貴仁 (国連支援財団, 山梨県人会十士会空き家対策部会長)
大原 勝一 (株式会社SHOEI代表取締役)
渡邊 裕子 (山梨県立大学看護学部教授・理事)

申し込み方法 ①申し込みフォームよりお申し込みください。 <https://forms.gle/BTH9rP3YVDXx9NhWA> ②FAXで055-225-1150にお申し込みください。名前、所属(事業所名)、住所、電話番号、メールアドレス、職業、年代、参加形式(対面かオンライン)を記載してください。

問い合わせ先 山梨県立大学 社会連携課(地域研究交流センター)
TEL 055-225-5412 E-mail ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp

主催：山梨県立大学 地域研究交流センター

(2) 学生地域貢献活動支援事業

- ①【団体名】山梨県地場産業の活性化をめざす活動チーム
【事業名称】山梨地場産業の活性化をめざす活動
- ②【団体名】高木ゼミ
【事業名称】移住者を通して地域を考える in 北杜市
- ③【団体名】国際ボランティアクラブ（IVC）アイビー
【事業名称】外国籍児童・生徒への学習支援
- ④【団体名】ナインの会
【事業名称】学生と福祉現場における交流会
- ⑤【団体名】山梨県立大学 ジェイソン・プラットゼミ 2年
【事業名称】アフガニスタンの郷土料理を作ろう！
- ⑥【団体名】NPO法人チャリティーサンタ甲府市部
【事業名称】NPO法人チャリティーサンタ甲府支部

公立大学法人 **山梨県立大学**
Yamanashi Prefectural University

**参加無料
出入自由**

**2022年度
地域研究交流センター**
～各種研究・実践プロジェクトの成果発表～

2023年3月24日(金)
10:30～15:30 ※開場 10:00～

山梨県立大学 飯田キャンパス C館1階101教室
対面&オンライン(ZOOM)開催

10:30～11:30 学生地域貢献活動報告会	11:30～15:30 研究&実践活動報告会
--	---

「地域に開かれ地域と向き合う大学」を実践する山梨県立大学では、地域貢献に資する各種研究プロジェクトに取り組んでいます。その成果を地域に広く発信し、還元することを目的に、地域の国際化や福祉、看護等に係る研究、実践活動の報告会を開催します。

申込方法 締切：
3月23日(木) 12:00

**Googleフォームより
お申し込みください**

<https://forms.gle/iB7vzoahMME5mu4KA>

主催：山梨県立大学 地域研究交流センター

問い合わせ先
山梨県立大学 地域研究交流センター
TEL：055-225-5412
Mail：ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp

タイムスケジュール

10:30～11:30 学生地域貢献活動報告会

- 10:30 開会（はじめの言葉/センター長挨拶）
 10:40～10:48 「山梨県地場産業の活性化をめざす活動」山梨県地場産業の活性化をめざすチーム
 10:50～10:58 「外国籍児童・生徒への学習支援」国際ボランティアクラブ(TVC)アイビー
 11:00～11:08 「学生と福祉現場における交流会」ナインの会
 11:10～11:18 「アフガニスタンの郷土料理を作ろう！」山梨県立大学ジェイソン・フラットゼミ2年
 11:20～11:28 「NPO 法人チャリティーサンタ甲府支部」NPO 法人チャリティーサンタ甲府支部
 ※各発表の間に質疑応答の時間があります

11:30～15:30 研究&実践活動報告会

- 11:30～11:38 「手でみる展覧会 2022 -感染症蔓延に留意した触覚を使った美術作品鑑賞の実践-」
人間福祉学部 准教授 古屋 祥子
 11:40～11:48 「やまなし多言語高校進学ガイダンス-キャリアプランを考える拠点づくり元年-」
国際政策学部 教授 萩原 孝恵
 11:50～11:58 「山梨県峡南地域の河川環境ガバナンスに向けたワークショップの開催」
国際政策学部 教授 賀浦 一哉
 12:00 午前の部終了
 13:00 午後の部開始
 13:00～13:20 「多様性ある社会的連携・協働の構築に関する研究」
看護学部 教授 長坂 香織
 13:25～13:45 「過疎地域における持続可能な地域社会の形成に関する研究
-山梨県身延町をフィールドとして SDGs の観点から-」
国際政策学部 教授 安達 義通
 14:00～14:15 「誰もが迎える高齢期の生活と介護への備え-高齢期の不安に向き合う地域支援活動-」
人間福祉学部 教授 中島 朱美
 14:20～14:35 「市民活動組織におけるコロナ禍と平時の活動内容比較
-民生委員と福祉推進員に焦点を当てて-」
人間福祉学部 准教授 青柳 暁子
 14:40～14:55 「山梨県におけるがん検診受診行動の要因 受診しない要因と受診行動変容のプロセス」
看護学部 教授 前澤 美代子
 15:00～15:15 「山梨県における市町村 DX 計画の重点内容と人材確保手段に関するアンケート調査
-DX 化の推進がもたらす行政需要及び職員数の変化の可視化-」
国際政策学部 教授 申 龍徹
 15:20 締め言葉
 15:30 閉会
 ※各発表の間に質疑応答の時間があります

※予定は当日の状況で変更になることがあります

(3) 学部共催事業

①国際政策学部 第6回 山梨政策フォーラム「太陽光発電との共存は可能か」

第6回山梨政策フォーラムでは、日本全国の自治体において地域懸案となっている太陽光発電施設の設置問題を取り上げ、脱炭素社会に向けた自然エネルギーの確保と設置場所をめぐる住民とのトラブル発生の原因について探ることとし、長野県安曇野市立洞合自然公園隣地の太陽光発電施設の設置をめぐる住民・議会・行政側の意見を聞く場として設けられた。

議会对応を理由とする行政側の不参加の中、住民と議会の意見の中では、土地利用条例の限界と太陽光発電に対する政策的ビジョンの不在に対する指摘がなされる一方、行政法の立場からは適正な手続きに沿った民間業者の利益確保は保障すべきとの意見もなされた。

フォーラムにおける結論としては、長野県が示している森林伐採を伴う太陽光設置の禁止（方針）を踏まえ、ゾーニングのようなより計画的な設置計画の策定と住民の生活圏に配慮した手続きとしての新しい条例の制定、そして森林伐採を伴う設置を全面的に禁止した山梨県条例の参考・活用などであった。

- ・実施日：2022年10月15日（土）、14:00～17:00
- ・場 所：長野県安曇野市三郷「地球宿」
- ・参加者：対面・オンライン 計23名
- ・文 章：申龍徹（企画責任、コーディネーター、総合政策学科・教授）

山梨県立大学国際政策学部

第 6 回山梨政策フォーラム

太陽光発電との 共存は可能か？

このシンポジウムでは、山梨県をはじめ全国各地において地域共通課題となっている太陽光発電の事業化に伴うまちづくりへの影響について議論する。安曇野市がまちづくりの最前線から経験した情報を共有し、反対運動による一過性の解決だけでなく、まちづくりとの共存可能性について、住民・議会・行政の視点から検討し、その持続可能な政策形成を発信する機会とする。

共催・山梨県立大学国際政策学部、地域研究交流センター

・2022年10月15日(土)、14時～17時

・長野県安曇野市「地球宿」より Zoom 同時配信 (参加無料・要申込)

■プログラム

1230-1330、墨沢洞合自然公園隣地見学

1400-1410、開権挨拶

1410-1430、報告 1・住民の視点

1430-1450、報告 2・議員の視点

1450-1500、コメント及び論点整理 1

1500-1510、コメント及び論点整理 2

1510-1520、コーヒープレイク

1520-1630、パネルディスカッション

1630-1650、質疑応答

1650-1700、参加者の一言

パネルディスカッション

ソーラーパネル問題が試す 自治体の政策形成力

・パネリスト、大浜崇 (墨沢洞合の里山を未来の子供たちに残す会代表)

・パネリスト、増田望三郎 (安曇野市議会議員)

・コメンテーター、伊藤智基 (山梨県立大学・准教授)

・コーディネーター、申龍徹 (山梨県立大学・教授)

申し込み・申研究室 shin@yamanashi-ken.ac.jp

-山梨県立大学-

②人間福祉学部「第 11 回保育リカレント講座」

会の名称	第 11 回保育リカレント講座 「乳幼児期の養育環境の重要性～アタッチメントとトラウマの視点から～」
会の主体	主催：山梨県立大学 人間福祉学部人間形成学科 (担当責任教員 村木洋子) 共催： 山梨県立大学 地域研究交流センター 山梨県立大学 福祉・教育実践センター
開催日時	令和 4 年 10 月 22 日 (土) 14:00～16:00
開催場所	山梨県立大学 飯田キャンパス B 館講堂
参加人数	総計 58 名 (内訳) 一般 23 名、学生 27 名、教員 8 名
内 容 概 要	
<ul style="list-style-type: none"> □ 医学博士、小児科専門医、子どものこころ専門医であられる奥山眞紀子先生に小児精神保健、子ども虐待、子どものトラウマなどについてご講話いただいた。 □ アタッチメントについて、親子関係の重要性を乳幼児行動システムからご説明いただき、子どものトラウマ反応やその支援についてのさまざまな事例など詳しくご講演いただいた。 	

参加者からのご意見・ご要望	
<ul style="list-style-type: none"> □ さらに深く学びたいと思ったのと同時に、学んだことを現場で確実に実践し、子ども達のために動けるような職員でありたいと心から思いました。幼稚園の園長先生のご質問も非常に参考になりました。受講して良かったです。(一般) □ 保育者としてどのように子どもたちと関われば良いのか学ぶことができたのでよかったです。今回学んだことをこれからの実習などに活かしていきたい。(一般) □ 「いっしょにガンバリましょう」とのお言葉に励まされました。(一般) □ 保育士として参加しましたが、今子ども達がたくさんの方に興味を持って「やってみたい！」と思っていることが保護者のおかげだということに気づき、ありがたみを感じました。虐待を受けている子は経験がないですが、今回のことを参考に保育していこうと思いました(一般)。 □ 犯罪・非行をした者に携わる職に就いていますが、多くの者が被虐待経験を受けている者であり、その二次的障害として犯罪・非行があるのかなと感じ、そういった者の更生のために必要なアプローチを教えていただいたような気がしました。そして、それに携わる我々のケアといった視点も示唆いただいたような気がします。(一般) □ トラウマやアタッチメントについて、わかりやすくとても興味深い話を聞いて大変勉強になったのですが、特に最後の保護者じゃなくても誰かが応答してあげれば、という言葉が印象に残りました。(学生) 	
全体講評と課題	
<ul style="list-style-type: none"> □ 奥山先生のご講話は実践的な内容で事例がととてもわかりやすく、現職の保育者や施設職員にも高い満足度が得られた。 □ 奥山先生にご準備いただいた当日資料が大変充実していて、受講後も学んだことの理解に有効に活用できた。 □ 感染状況がおちついていたため講堂での対面講座となったが、定員を設けて開催したため、後日期間限定で当日の講座をオンライン視聴できるよう準備した。当日会場に来れなかった一般の方々、また定員制限のためオンライン受講の学生には大変有意義な学びとなった。 	
備考 ※学部・学科の対応や今後の取り組みなど	
<ul style="list-style-type: none"> □ 隔年開催の予定なので次回は令和5年度に開催予定である。 	

③ 国際政策学部「現代の印象：20世紀の日本の版画」

④ 甲府城西高校との高大連携事業
2022年度「福祉と看護」

	月日	担当先生	講義テーマ
1	6月14日	大倉美佳 金井美希	看護職にとって対象者に寄り添うとはどういうことか、住民の健康を守る保健師の立場から
2	9月20日	渡邊かつみ	意思決定支援の援助 患者の意思決定支援家族が代理に行う意思決定支援
3	9月27日	茅野久美	高齢者の言語を科学的に理解しよう
4	10月11日	青柳暁子	介護予防
5	10月25日	中込洋美 芳賀了	マネジメントにいかすコミュニケーション
6	11月8日	奥谷佳子	幼児教育の大切さ
7	12月13日	山中達也	「聴くこと」は援助になるのか
8	12月20日	青柳暁子	睡眠のケア

※今年度は新型コロナウイルス感染予防対策を講じ、看護学部4回、人間福祉学部4回の計8回を開催した。

山梨県立大学
第11回 保育リカレント講座
乳幼児期の養育環境の重要性
～アタッチメントとトラウマの視点から～

本講座では、医学博士、小児科専門医、子どものこころ専門医であられる奥山眞紀子先生をお迎えし、小児精神保健、子ども虐待、子どものトラウマなどについてご講演いただきます。
みなさまのご参加をお待ちしております。

2022年
10月22日(土) 14:00～16:00 開場13:30～

会場 飯田キャンパスB館講堂
感染防止によりオンライン開催の可能性もあり

講師 奥山 眞紀子 先生

定員 80名 申込費 無料

対象 保育・教育・児童福祉関係者、
一般、学生、その他

申込方法 専用フォーム(URLもしくはQRコード)をご利用ください。
専用フォームURL: <https://bit.ly/3qf800e>
※このリンクは10月22日(土)13時30分まで有効です。

オンライン開催の場合、お申込の方には10月12日(水)までにZoomミーティングIDとパスワードをメールにてご案内いたしますので、そちらからご参加ください。メールが不届きの場合は、mc-ono@yamanashi-u.ac.jpまでお問い合わせください。
※、オンラインに接続できない場合はご自身でご準備ください。

お問い合わせ先
山梨県立大学 人間福祉学部 福祉・教育実践センター
E-mail: mc-ono@yamanashi-u.ac.jp TEL/FAX: 055-234-5536

講師紹介
奥山 眞紀子 Makiko Okuyama
姓名、社会福祉法人立正学生養子子どもの心のクリニック院長、日本子ども虐待防止学会理事、日本子ども虐待防止学会(JAMSCAN)理事、社会福祉法人子ども虐待防止センター理事、NPO法人埼玉子ども虐待から守る会理事、埼玉労働者社会保険福祉会児童福祉部社会福祉専門員としての児童福祉の現場を歴めている。
子育てには「虐待を受けた子どものケア」(児童100歳と虐待防止)「虐待 保護者」(虐待防止のための子ども虐待防止マニュアル)がある。また、「アタッチメント」(1985年)などがある。

主催 山梨県立大学人間福祉学部人間形成学科
共催 山梨県立大学人間福祉学部 福祉・教育実践センター、山梨県立大学地域研究交流センター

2022年度 池田地区総合防災訓練における活動報告

今年度3年ぶりに開催した池田地区連合自治会主催の総合防災訓練への参加は、本学の地域研究交流センター事業としての地域交流・支援の位置づけとなる活動の一つである。本学は協力・指導団体として、企画会議（10月25日実施）から参加した。今年度で9回目となる総合防災訓練は、コロナ禍での感染予防対策により従来よりも縮小化した訓練内容の企画となったが、地域住民のニーズにより、大学看護学部として「災害時の応急処置」について担当することとなった。

- 日時：2022年11月13日（日）8:30～11:00
- 場所：池田小学校、甲府西高等学校、甲府城西高等学校の3か所
- 大学からの参加者：地域研究交流センター看護学部運営委員教員4名（大久保、西村、大倉、横内）
渡邊理事、学生ボランティア13名

当日の地域住民の参加者は、各会場120名前後であった。各会場に教員1～2名、学生4名～5名の配置とし、

各会場の自治会代表者との連携を図りながら、『災害時に活用できる応急処置の知識と技術』に関する訓練を実施した。パンフレット「おぼえておこう災害時の応急処置」を参加住民に配付し、教員と学生によるデモンストレーションを実施した後、参加した住民が体験を共有できる機会とした。

身近にあるタオルやストッキング、スカーフや風呂敷、段ボール等を活用した止血方法や創部の固定方法、レジ袋を代用した三角布の作成等に対する住民の関心が高かった。また、毛布やシートによる移送介助方法も取り入れた。住民からは、「ここで教えてもらえたことは災害に備えた知識として非常に大切。自分で体験できたことを家族や今日参加できなかった知人にも伝えたい。」といったメッセージも聞かれた。

また、学生からは、訓練に参加し住民と交流することを通して「地域住民と関わることができ貴重な機会となった。今後も地域活動に看護学生として積極的に参加していきたい。」という感想が聞かれた。

池田地区総合防災訓練に参加することで、池田地区住民の世代間交流による地域コミュニティの取り組みや災害に関する関心の高さを知る機会ともなった。次年度以降も地域交流・支援の位置づけとなる活動の一つとして、地域のニーズに対応できるよう取り組んでいきたい。

IV . 情報発信部門

1. 部門事業の概要

- (1) 学内外への情報発信（HPの更新等）
- (2) 年報作成

2. 部門事業の実績

- (1) 学内外への情報発信
地域研究事業やフォーラムなど各部門の取り組みを大学HPに随時掲載した。
- (2) 年報作成
2022年度の年報について、構成案を示し、取りまとめを行った。

V . 受託事業

(1) 受託事業

- (1) 子育て支援員認定研修会（山梨県委託事業）

① 目的

地域において子育て支援の仕事に関心を持ち、子育て支援分野への各事業等に従事することを希望する方に対し、必要となる知識や技能等を習得するための全国共通の子育て支援研修制度が創設された。本研修は、これらの支援の担い手となる子育て支援員を養成することを目的としている。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、施設への見学実習をDVD視聴に代替えた。

② 実施日

基本研修：令和4年8月22日、8月25日 計2日間

専門研修：令和4年8月29日、8月30日、9月1日、9月5日、9月6日、
9月8日、9月13日、9月15日、9月22日 計9日

③ 実施場所

山梨県立大学 講堂 体育館

④ 実施内容

【基本研修】

8月22日(月) 9:20～15:20

子ども家庭福祉、子どもの発達、子ども・子育て家庭の現状、保育の原理

8月25日(木) 9:25～15:20

対人援助の価値と倫理、子どもの障害、児童虐待と社会的養護、総合演習

【専門研修】

8月29日(月) 9:25～15:20

実施自治体の制度について、乳幼児の食事と栄養、地域型保育の概要、地域型保育の運営

8月30日(月) 9:30～12:10

心肺蘇生法

9月1日(木) 9:25～15:10

地域保育の環境整備、保育者の職業倫理と配慮事項、特別に配慮を要する子どもへの対応(0～2歳児)

9月5日(月) 9:30～12:10

心肺蘇生法

9月6日(火) 9:30～12:10

心肺蘇生法

9月8日(木) 9:55～14:40

グループ討議、乳幼児の発達と心理

9月13日(火) 9:25～14:10

小児保健Ⅰ、小児保健Ⅱ、地域型保育における保護者への対応

9月15日(木) 9:25～15:10

乳幼児の生活と遊び、安全の確保とリスクマネジメント、地域型保育の保育内容

9月22日(木) 9:25～14:40

見学実習代替

※研修の修了には、基本研修(受講が免除される場合があります)及び専門研修の全科目の修了が必要

⑤ 参加人数：

基本研修:55名(8月22日:55名、8月25日:54名)

専門研修:62名(8月29日:54名、8月30日:20名、9月1日:55名、

9月5日:19名、9月6日:17名、9月8日:53名、
9月13日:51名、9月15日:50名、9月22日:51名)

⑥ その他：アンケート（習熟度調査）

基本研修受講者 55 名、専門研修受講者 62 名に、各初日にアンケート用紙を配布。8月25日(木)（基本研修最終日）、9月22日(木)（専門研修最終日）に、各アンケート用紙の提出か、Google フォームへのアンケート入力のとどちらかでの提出による、アンケート形式にて習熟度の調査を行った。

(2) やまなし市民後見人養成基礎講座（山梨県委託事業）

① 目的

専門職以外の一般市民による後見人（以下、「市民後見人」という。）の養成を推進するため、一般市民が後見人として必要な一定の基礎知識を習得する「やまなし市民後見人養成基礎講座」を開催した。

② 実施日

- 第1回 令和4年10月8日（土）
- 第2回 令和4年10月15日（土）
- 第3回 令和4年10月22日（土）
- 第4回 令和4年10月29日（土）
- 第5回 令和4年11月12日（土）
- 第6回 令和4年11月26日（土）
- 第7回 令和4年12月3日（土）

③ 実施方法・場所

山梨県立大学飯田キャンパス C101 教室での対面講義ならびにオンライン配信

④ 実施内容

第1回「ガイダンス・成年後見制度の概要」

講師：澁谷彰久氏（山梨県立大学 国際政策学部 教授）

第2回「市民後見人の概要と地域における後見人の役割」

講師：小林恵氏（リーガルサポート山梨 司法書士）

第3回 「社会福祉協議会等の活動からみた市民後見」

講師：田村正人氏（社会福祉士）松本成輔氏（弁護士）

第4回「後見制度と民法」

講師：松本成輔氏（弁護士）

第5回「障害者への理解と市民後見活動」

講師：柳田正明氏（山梨県立大学 人間福祉学部 教授）

堀内直也氏（NPO 法人みつばのくろーばー 社会福祉士・介護福祉士）

第6回「高齢者の理解と対応方法」

講師：小山尚美氏（山梨県立大学 看護学部 准教授）

第7回「地域に根差す市民後見人誕生に向けて」

講師：波左間貴宏氏（甲府家庭裁判所主任書記官）

村山かほる氏（甲府市役所職員）

小林恵氏（リーガルサポート山梨 司法書士）

高橋駿介氏（甲府市社会福祉協議会職員）

市民後見人養成基礎講座修了生 2 名

⑤ 参加者数

第 1 回 16 人、第 2 回 14 人、第 3 回 15 人、第 4 回 15 人

第 5 回 15 人、第 6 回 15 人、第 7 回 14 人

⑥ 修了者数

14 人

甲府市 9 人、富士河口湖町 1 人、甲斐市 1 人、南アルプス市 1 人、笛吹市 1 人、
韮崎市 1 人、

令和4年度山梨県委託事業

第9期

やまなし 市民後見人 養成基礎講座

参加
無料

成年後見制度に関心のある方、地域での高齢者問題・障害者問題に関心のある方などを対象に、第9期生を募集いたします。
市民後見人の基本的なことからお話いたしますので、初心者・実務家の皆様もどうぞ奮ってご参加ください！

日程 >>>> 講義7日間（全て土曜日） 13:00～16:30
10/8、10/15、10/22、10/29、11/12、11/26、12/3
※全7回の講座履修者には修了証が発行されます。
※欠席した場合、欠席した回のレポート提出により出席とみなします。


会場 >>>> 山梨県立大学飯田キャンパス C 館 101
※ZOOMによるオンラインでの受講可能

日程	内容	講師
第1回 10月8日	ガイダンス・成年後見制度の概要	渋谷彰久氏（山梨県立大学 名誉教授）
第2回 10月15日	市民後見人の概要と地域における後見人の役割	リーガルサポート山梨 小林 恵氏（司法書士）
第3回 10月22日	社会福祉協議会等の活動からみた市民後見	田村正人氏（社会福祉士）
第4回 10月29日	後見人制度と民法	松本成輔氏（弁護士）
第5回 11月12日	障害者への理解と市民後見活動	柳田正明氏（山梨県立大学人間福祉学部 教授） 堀内直也氏（NPO 法人みづばのくろーばー）
第6回 11月26日	高齢者の理解と対応方法	小山尚美氏（山梨県立大学看護学部 准教授）
第7回 12月3日	地域に根差す市民後見人誕生に向けて ◎ 講座終了後、修了式開催	甲府家庭裁判所主任書記官、甲府市役所職員 甲府市社会協議会職員、小林 恵氏（司会）

お申込み >>>> 9/30（金）までにお申込みください。
Google フォーム・電話・メールにて受け付けます。
※お申込みの際に、お名前・ご職業・ご住所・出席予定の回・受講形式をお知らせください。

お問い合わせ >>>> 山梨県立大学 社会連携課
TEL : 055-225-5412 Mail : ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp

Google フォームでの
お申込みはこちら！



（3）富士河口湖町観光 PR 事業（富士河口湖町委託事業）

①実施概要

2022年6月27日に富士河口湖町観光課と山梨県立大学安藤ゼミとで打ち合わせを行い、7月7日に契約締結、7月8日より富士河口湖町観光 PR 事業を開始した。

2022年度は3年目の事業実施となった。2020年度は、主に大学生が富士河口湖町の観光資源や観光施設を体験し、ツアー型動画を制作した。2021年度は、ツアー型動画制作に加えて、富士河口湖町内の観光施設、飲食店、宿泊事業者などと協力し、取材型動画を制作した。

2022年度は、社会的にコロナ禍からの回復モードになってきたことから、With コロナ、アフターコロナ時代の観光誘致を目的とし、マイクロツーリズムや自然体験、インバウンドを見据えた動画コンテンツの制作を行った。具体的には、河口湖周辺の歩くツアーや、インバウンドについては、中国や台湾向けの多言語の動画を、中国語ゼミ（賀ゼミ）、台湾からの留学生などの参加を経て、動画撮影や編集を行った。また、YouTube Shortsの作成やInstagramの投稿頻度を上げるとともに、PRツールとしてのパンフレットを作成した。

②成果物

■動画のリスト

- I. 【Vlog 風】女子大生で巡る河口湖インスタ映えカフェ巡りツアー
- II. 女子旅 in 富士急ハイランド
- III. 【Vlog】歩いて行ける女子旅 in 河口湖
- IV. 青木ヶ原樹海ツアーに行ってみたら楽しすぎた！！
- V. 【中文字幕】河口湖早春半日游～草莓香气中的白雪富士～【Vlog】早春二月半日の旅 in 河口湖
- VI. 台湾の学生が選ぶ！河口湖の観光スポット4選！～食と景色と文化の旅～
- VII. 一起去台湾留學生選的河口湖觀光景點觀光吧！

■PR ツール（パンフレット）の制作

大学生がおすすめしたい富士河口湖町の観光スポットを紹介

（4）日本で生活する外国人のための「日本語・日本文化講座」（甲府市委託事業）

① 実施日・参加者数

回数	開催日	初級クラス	中級クラス	文字クラス	合計人数
1	R4.5.1	2	6	6	14
2	R4.5.8	6	3	8	17
3	R4.5.22	8	6	8	22
4	R4.5.29	6	2	8	16
5	R4.6.5	6	3	10	19
6	R4.6.12	6	9	8	23
7	R4.6.19	3	3	8	14
8	R4.6.26	4	9	3	16
9	R4.7.3	3	3	6	12
10	R4.7.10	3	11	8	22
11	R4.7.24	2	4	5	11
12	R4.9.18	1	4	6	11
13	R4.9.25	5	3	4	12
14	R4.10.2	4	5	7	16
15	R4.10.9	8	4	9	21
16	R4.10.16	3	4	3	10

17	R4.10.23	7	5	7	19
18	R4.11.13	3	3	5	11
19	R4.12.4	1	1	1	3
20	R4.12.11	1	1	3	5

② 実施方法・場所

対面方式・山梨県立大学飯田キャンパス

にほん せいかつ がいこくじん
2022 日本で生活する外国人のための
 にほんご にほんぶんか こうざ
日本語・日本文化講座

Japanese language and Culture Course / 日本語・
 日本文化講座 / 일본어・일본문화강좌 / Curso de língua
 e cultura Japonesa / Curso de lengua y cultura Japonesa
 / Khóa học tiếng Nhật, văn hóa Nhật

にちようび
日曜日 13:00~15:00

がつ 5月	ついたち 1日、	ようか 8日、	にち 22日、	にち 29日	がつ 10月	ふつか 2日、	このか 9日、	にち 16日、	にち 23日
がつ 6月	いつか 5日、	にち 12日、	にち 19日、	にち 26日	がつ 11月	にち 13日			
がつ 7月	みっか 3日、	とおか 10日、	にち 24日	がつ 12月		よつか 4日、	にち 11日		
がつ 9月	にち 18日、	にち 25日							

じゅぎょう かね
授業のお金 ￥0

きょうざいひ かね
教材費 (テキストのお金) ￥2,000

Facebook


ばしよ MAP
場 所 : やまなしけんりつ だいがく
 山梨県立大学 飯田キャンパス A館4階
 こうふし いいだ
 甲府市飯田5-11-1

と あ やまなしけんりつ だいがく しゃかいれんけいか
お問い合わせ : 山梨県立大学 社会連携課
 TEL:055-225-5412 FAX:055-225-1150
 E-MAIL:shakairenkei@yamanashi-ken.ac.jp

UCRE

2022年度 山梨県立大学 地域研究交流センター 年報

発行者：地域研究交流センター長 安達 義通

編集：地域研究交流センター 情報発信部門

発行所：山梨県立大学地域研究交流センター

住所：〒400-0035 山梨県甲府市飯田5丁目11-1

TEL：055-225-5412 FAX：055-225-1150

E-mail：ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp

発行日：2023年12月27日
